

1960年代学生資料を大学文書館で受贈

8月15日（木）、大学文書館では、小笠原正明名誉教授から、1960年代の在学関係資料3箱をご寄贈いただきました。

小笠原名誉教授は、岩手県立盛岡第一高等学校を卒業後、1962（昭和37）年教養部理類に入学、理学部化学科、大学院理学研究科修士課程において、学生生活を送られました。

この度受贈した資料は、（1）受講ノート、（2）日記・日誌、（3）「北海道大学新聞会」の編集部・主任会議の配布資料、（4）修士論文「スチレンのパルスラジオリシス」の手書き原稿、（5）印刷物（大学祭ニュース・プログラム、合唱団の発表会プログラム・楽譜、化学科移行生歓迎会の冊子、新聞、ビラ）等です。

受講ノートには、教養部の講義（人類学、西洋史、社会思想史、東洋史、外国文学、独語、英語、自然科学概論、有機化学、心理学、統計学、物理学）と、理学部の講義（分析化学、物理数学、量子化学、有機化学通論）のノートがあります。

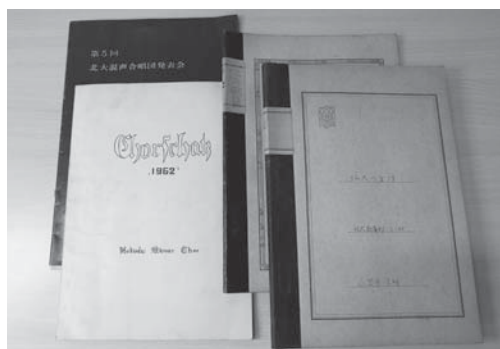
日記・日誌には、教養部1年20組の学生の頃に記された日記「北大の生活」（1962年4～5月）や、2～3年生の頃の日記（1963～64年）のほか、1962～64年にかけて所属し、その活動を支えた「北海道大学新聞会」の日誌などが含まれています。

日記「北大の生活」には、家計簿、朝・昼・夕・補食等の食事記録、履修状況・学修の進捗、家族宛ての手紙の控え、出来事・随筆等が、1日1ペー

ジの割合で細やかに記されています。日記からは、早朝の学内ランニング、巖鷲寮での寮生活、授業後の各種サークル（新聞会、合唱団、社会科学研究会等）への参加など、意欲的な大学生生活を送っている活発な1年生の姿が浮かび上がってきます。

今後、ご寄贈いただいた資料は大学文書館の沿革資料室収蔵庫において大切に保管し、整理作業を進めて、常設展示「北大生の群像——北大150年の群像」（大学文書館1階展示ホール）や企画展示などにも反映させていきます。

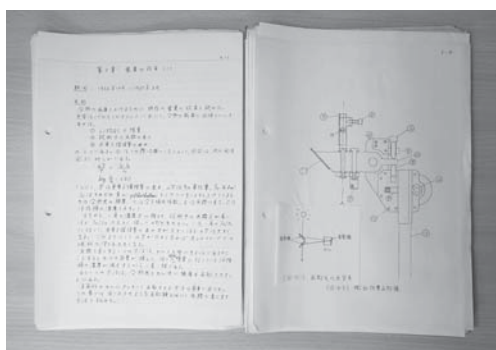
（大学文書館）



合唱団のプログラム・楽譜と生活日記



新聞会の活動日誌（1962-64年）



修士論文の原稿（1967年12月）